

令和6年度第1回黄海小学校運営支援協議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度黄海小学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和6年5月29日（水）午前10時から午前11時45分まで
- 3 開催場所 黄海小学校 会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 葛城行将委員（会長）、及川清喜委員（副会長）、小野寺美紀委員、伊藤智委員、千葉松男委員、熊谷郁雄委員、佐藤洋子委員、千葉正志委員
 - (2) 事務局 佐々木伸校長、後藤純一副校長
※欠席者 熊谷賢一委員、黄海千鶴子委員、太齊ちひろ委員、熊谷啓委員
- 5 議題
 - (1) 令和6年度学校経営の基本方針及び重点について（授業参観を含む）
 - (2) 令和6年度黄海小学校「まなびフェスト」について
 - (3) 今年度の地域とともにある学校づくりの重点活動について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0人
- 8 議事内容
 - (1) 令和6年度学校経営の基本方針及び重点について
事務局から、めざす学校の姿「できた！わかった！と喜びを味わえる学校」とめざす子どもたちの姿「また明日！と笑顔で帰る子どもたち」の実現に向けた基本方針と重点について説明を行った。以下、意見等。
委員 授業参観を通して感じたが、電子教科書だけになると、担任のアイデアがなくなり、教科書出版会社に支配されることにもなりかねないように感じられ、ICTの広まりも一長一短に思う。
委員 授業参観したが、ICTの推進で先生方は大変ではないのか。
委員 他市町村から赴任した先生は、ICTを新しく覚えなければならないのか。
事務局 電子教科書やタブレットでの指導とノート指導の双方で授業を進めている。それぞれの良さや効果的な使い方について、校内研究会の場でもテーマとして取り上げ、教職員全員で共有しながら進めている。
新任の先生は、周囲の職員がサポートしたり、校内研究会の場で研修したりすることで、適切に扱うことができるようになっている。
一関市はICT教育に対して先行実施している面が多く、今後他市町村の手本になっていくと思う。そういった点からも、子どもたちの学びを深められる手段の1つとして、積極的に活用していこうと考えている。
委員 2年生の授業でカッターの使い方を指導していたが、今日のような丁寧な指

導説明が良い。

事務局 使えるだろう、使ったことがあるだろうという先入観を持たずに、特にも危険を伴う道具の扱い方は、実験器具を含め、各学年慎重に指導している。

(2) 令和6年度黄海小学校「まなびフェスト」について

事務局から「まなびフェスト」の保護者への提示と評価の方法について説明を行った。昨年度の実態により、年間読書目標冊数を大幅に増やしたことについても説明を行った。以下、意見等。

委員 宿題は、今もあるのか。昔、分校から本校になったとき児童数が五、六人から60人ぐらいに増えて勉強に追いつくのが大変だった。

事務局 学年ごとに取組時間を設け、毎日出している。取組時間は、各学年×10+10分としていて、藤沢町内の小学校共通である。

委員 黄海小学校で不登校がないのは、地域として嬉しいことである。私たちが望む学校である。

事務局 地域や保護者が常に子どもたちを見守ってくださっていることで、安心して学校経営を進めることができる。時々登校を渋る子も見られるが、担任がその日のうちに連絡をとり、保護者協力のもと登校を促す手立てを必ずとっている。

委員 小さい頃の読書習慣は大事である。藤沢図書館は以前県立図書館からも本を借りたりしながら、子どもたちの読書環境を作ってきた。

委員 黄海の子どもは、読書が好きであるが、市の図書にかける経費も多い。活字を読むのは大事。

事務局 子どもたちの周囲には常に本が置かれている環境に感謝したい。藤沢図書館が毎月移動図書館で来校し、個人あるいは学級に貸出しをしてくれていることや読書普及員が図書支援をしてくれていることが読書好きの子どもたちの増加につながっていると感じる。

委員 まなびフェストを見ると、子どもたちの徒歩通学を呼び掛けているようだが、実態はどのようになっているのか。

事務局 学校を中心とした周囲800m圏内を徒歩通学範囲とし、保護者にも協力を呼び掛けている。9割方の児童は徒歩で登校ができているが、こども園の送迎に便乗している児童も見られるので改善していきたい。また、学校評価にも位置づけ、結果を通知している。

委員 800m圏内としている理由は何か。

事務局 学校から800mの距離にある藤沢市民センター黄海分館や樋ノ口橋付近には、車を駐車できるスペースがあることから、乗降時の安全面も考慮しその2か所を起点としている。下校時も迎えの車は、その2か所で待機してもらうように

呼び掛けている。

(3) 今年度の地域とともにある学校づくりの重点活動について

事務局から今年度の年間行事計画を示し、各行事や活動と学校運営支援協議会委員を中心とした地域との関わりについて説明。以下、意見等。

委員 小規模校には、小規模校の良さがある。先生方と子どもの結びつきが強くなる。

事務局 小規模校ならではの取組、例えば縦割り班の掃除や集会など異年齢による集団活動を通して、関わり方の方法や力の高まりを目指している。

委員 黄海小学校の子ども達は、こちらから声をかける前にあいさつをしてくれる。一方、中学生になると減ってくるのは残念である。

事務局 登下校時の挨拶は、地域の方々が子どもたちに向けて声をかけてくれていることが習慣化されている大きな要因だと思う。

委員 黄海の子どもは、地域みんなで育てているという風土がある。

事務局 本校の行事や活動は、地域の方々の協力なしでは成り立たないものが多く、稲作体験や伝承芸能、防災学習など常に支えていただいていることに感謝している。これからも運営支援協議会の委員を中心に子どもたちの取組をサポートしていただければと願う。

10 担当 黄海小学校